フェブキソスタット内服に伴う，尿酸排泄の変化

桑原 政成^{1,2)} 丹羽公一郎²⁾ 浜田 紀宏³⁾
荻野 和秀⁴⁾ 太田原 顕⁵⁾ 水田栄之助⁵⁾
宮崎 聡⁶⁾ 久留 一郎⁷⁾

背 景

高尿酸血症・痛風の治療ガイドラインでは，高尿酸血症の治療の際に，尿酸排泄低下型か尿酸産生過剰型かの病型分類を行い，病型に合った尿酸降下薬を使用することが推奨されている。しかし，副作用の少ない新薬の登場により，腎機能が悪くてもキサンチンオキシダーゼ阻害薬が使用可能となった。キサンチンオキシダーゼ阻害薬は，尿酸産生を低下させることで尿酸値(UA)の低下が期待される薬であるが，尿酸排泄に及ぼす影響については不明な点が多い。

目 的

キサンチンオキシダーゼ阻害薬であるフェブキソスタットを用いた加療により，尿酸排泄がどのように変化するのか，病型分類が変化するのかを検討する。

方 法

20歳以上で，血清尿酸値8.0 mg/dl以上かつ，内服薬変更を3か月前から行っていない患者を対象とし，フェブキソスタット内服開始前と，内服12週間後で，尿酸排泄に違いが生じるかを検討した。フェブキソスタットは10mgで内服開始し，2週間後に20mgに増量，以後20mgで内服継続と

した。尿酸排泄は，尿UA/尿Cre，尿中尿酸排泄率：FEUA(尿UA/尿Cre)/(血清UA/血清Cre))で検討を行った。

結 果

16人の男性(54.4±15.1歳)を研究対象とした。ベースの尿UA/尿Creが0.52を超える尿酸産生過剰型の高尿酸血症は2人いたが，どちらもフェブキソスタット内服後は0.5未満に低下していた。尿UA/尿Creは16人中15人で，低下を認めていた(-0.17±0.11)。内服前のFEUA<4%の尿酸排泄低下型は7人いたが，フェブキソスタット内服後には3人がFEUAの増加を認めていた。全体のFEUAは4.27±1.06%から3.71±1.40%に低下を認めていた。16人中12人のFEUAが低下し，新たに5人がFEUA<4%の尿酸排泄低下型となった。FEUAは4人が増加していたが，そのうち3人は尿酸排泄低下型の症例であった。

結 語

フェブキソスタットの内服により，高尿酸血症の病型分類が変わり，尿酸排泄低下型が増加することが示された。尿酸産生を抑えることが，尿酸排泄量を低下させることにつながっていることが明らかとなった。この事は高尿酸血症の一部に尿

- 1) 虎の門病院 循環器センター内科
- 2) 聖路加国際病院 循環器センター内科
- 3) 鳥取大学医学部 地域医療学講座
- 4) 鳥取大学附属病院 検査部
- 5) 山陰労災病院 循環器内科
- 6) 藤井将雄記念病院 内科
- 7) 鳥取大学大学院医学系研究科
機能再生医科学専攻 再生医療学部門

Masanari Kuwabara
Masanari Kuwabara, Kouichiro Niwa
Toshihiro Hamada
Kazuhide Ogino
Akira Ohtahara, Einosuke Mizuta
Satoshi Miyazuka
Ichiro Hisatome

尿酸排泄低下型が関わっている可能性があることを示し、フェブキソスタットに尿酸排泄促進薬の服用が有効な場合があることを示唆する。もともと尿酸排泄が低下している症例に対しては、一部の症例で、フェブキソスタット内服により尿酸排泄の増加を認めており、腎保護に働いている可能性も示唆された。